

2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

神辺中学校区	校番 80	福山市立道上小学校
最終更新日	2020年(令和2年)4月1日	

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>○これまでの自分のやり方を見直しながら、授業改善に取り組む姿は素晴らしい。</p> <p>○今の指導の方向は、社会のニーズにも対応できていると考える。</p> <p>●自己肯定感について、小学校と中学校とで視点が異なる。自分の良さだけでなく、他者から認められていることも評価項目として取り入れたほうが良い。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>○子ども主体の授業展開により、自分で考え、選択し、決定するという力がついてきた。</p> <p>●他者の学びの姿から、その良さを自分の学びに取り入れていく力が求められる。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>コミュニケーション 人としての思いやり</p> <p>自他の良さを認め合いながら、未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒</p> <p>○ 児童・生徒が、授業での学びを日常の様々な場面で活用し行動できるようになる。</p> <p>○ 児童・生徒が、自己肯定感・自己有用感を高める。</p> <p>○ 校種、教科・領域をこえた合同研修等を行う。</p>
---	---	--	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>社会に貢献できる人づくり</p>
<p>学校教育目標</p> <p>豊かな心を持ち 共に高まり合う 子どもの育成</p>
<p>現状</p> <p><児童></p> <ul style="list-style-type: none"> 習得した知識、技能を活用する力が十分ではない。 自己肯定感が低い児童が固定化している傾向にある。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 課題意識をもち、理解を深めたり、考えを広げたりする授業づくりが必要である。 児童の学習状況を把握し、個に応じた授業実践を行い、学力向上につなげる授業づくりが必要である。

<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像</p>	<p>自他の良さを認め合いながら、未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>レベル1</th> <th>レベル2</th> <th>レベル3</th> <th>レベル4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感情や行動を律し、ルールやマナーを守ることができる。</td> <td>時と場に応じた適切な言動を選択し、成長のために進んで学ぶことができる。</td> <td>何事においても、目標設定ができ、自己の可能性を信じて主体的に挑戦することができる。</td> <td>自己の言動に対する振り返りができ、適切に改善できる。</td> </tr> <tr> <td>他者の意見を聞き、自分の考えを伝えることができる。</td> <td>他者の意見の相違を受け止め尊重することができ、協力・協同して参画できる。</td> <td>意見の相違に対して代案を示すなどして合意形成し、積極的に社会(集団)を形成することができる。</td> <td>自己の対人関係や社会(集団)とのかかわりに対する振り返りができ、適切に改善できる。</td> </tr> <tr> <td>自分や他者を大切に思うことができ、親切にし、いたり、励まし、助け合い、協力し合うことができる。</td> <td>多くの善意や支えに気づき、社会(集団)や自然の恵みに対して「ありがたい」と感じることができる。</td> <td>他者や社会(集団)に対して、自分ができていることを考え貢献できる。</td> <td>他者や社会(集団)に対する自己の在り方を振り返り、適切に改善できる。</td> </tr> </tbody> </table>	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	感情や行動を律し、ルールやマナーを守ることができる。	時と場に応じた適切な言動を選択し、成長のために進んで学ぶことができる。	何事においても、目標設定ができ、自己の可能性を信じて主体的に挑戦することができる。	自己の言動に対する振り返りができ、適切に改善できる。	他者の意見を聞き、自分の考えを伝えることができる。	他者の意見の相違を受け止め尊重することができ、協力・協同して参画できる。	意見の相違に対して代案を示すなどして合意形成し、積極的に社会(集団)を形成することができる。	自己の対人関係や社会(集団)とのかかわりに対する振り返りができ、適切に改善できる。	自分や他者を大切に思うことができ、親切にし、いたり、励まし、助け合い、協力し合うことができる。	多くの善意や支えに気づき、社会(集団)や自然の恵みに対して「ありがたい」と感じることができる。	他者や社会(集団)に対して、自分ができていることを考え貢献できる。	他者や社会(集団)に対する自己の在り方を振り返り、適切に改善できる。
レベル1	レベル2	レベル3	レベル4														
感情や行動を律し、ルールやマナーを守ることができる。	時と場に応じた適切な言動を選択し、成長のために進んで学ぶことができる。	何事においても、目標設定ができ、自己の可能性を信じて主体的に挑戦することができる。	自己の言動に対する振り返りができ、適切に改善できる。														
他者の意見を聞き、自分の考えを伝えることができる。	他者の意見の相違を受け止め尊重することができ、協力・協同して参画できる。	意見の相違に対して代案を示すなどして合意形成し、積極的に社会(集団)を形成することができる。	自己の対人関係や社会(集団)とのかかわりに対する振り返りができ、適切に改善できる。														
自分や他者を大切に思うことができ、親切にし、いたり、励まし、助け合い、協力し合うことができる。	多くの善意や支えに気づき、社会(集団)や自然の恵みに対して「ありがたい」と感じることができる。	他者や社会(集団)に対して、自分ができていることを考え貢献できる。	他者や社会(集団)に対する自己の在り方を振り返り、適切に改善できる。														
<p>研究</p> <p>教科等 全教科、道徳</p> <p>主題・内容等</p>	<p>主体的に学ぶ子どもの育成 ～「学び合い」のある授業をめざして～</p>																
<p>めざす授業の姿</p>	<p>◎主体的な課題設定の場がある。</p> <p>◎児童が自発的に質問をしたり、考えを確かめたり、話し合ったりして考えを深めたりする場がある。</p> <p>◎児童自ら学習の終結や持続を判断し、友達の学びに共感できる場がある。</p>																

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	70以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70以上評価	達成評価	総合評価
2	学力向上に向けた「子ども主体の学び」の授業を実践する。	★	継続	◎算数科を中心として、児童の「学びのメカニズム」に着眼し、児童の「学び」を深める授業づくりを進める。	○研究授業を通して、児童の「学びのメカニズム」を捉え、共有化する。 ○児童個々の「学び」の状況に応じた取組を行う。	◇研究授業公開以外に、職員が学期に1回以上授業を見せ合って研修を行っている。 ◇その研修の有用感が90%以上の教職員が感じている。 ◇学力課題を抱えている児童に対する手立てを持ち、取り組んでいる。 ◇各種学力調査と単元末テストにおいて、国・県の平均を上回る。	□現在、14/23の職員が授業を見せ合って研修を行っている。 □アンケートから、100%の職員が、有用感を感じている。 □個別の支援計画を基に、どの学級も取り組んでいる。 □単元末テストでは、国語科100%、算数科94%で、算数科は上回ることができていない。	3	3	○授業の中で、グループ活動を充実させて、児童同士で学び合えるようにする。 ○児童の学習意欲を持たせる授業の導入の工夫、焦点を絞った話し合い活動で学習を深める。				
3	人と人のかかわりを重視した取組を進める。	★	継続	◎児童の自己肯定感、自己有用感を高める。 ○学校教育活動に、児童自らが発想した取組と協同的な活動を積極的に取り入れる。	◇自分大好きアンケート「自分には良いところがある。」【項目1】「友達や家族や先生に『ありがとう』と言われたことがある。」【項目2】の肯定的回答の割合を85%以上にする。 ◇共に活動した友達との間で、肯定的相互評価が全員できる。【項目3】	□前期の状況【項目1】87.6%【項目2】92.6%【項目3】95.5% □アンケート内であがえる児童の認識の状況は、過去3年間で連続して向上傾向にある。 □児童の意識を高める取組(缶バッチ)、掃除の取組(黙視黙想、掃除の仕方)を児童のアイデア、主体性を重視し、生徒指導部の分掌担当で進めた。	4	4	○アンケート等により、児童の意識の把握に努め、取組(あいさつ、落ち着いた行動)を焦点化し実行する。 ○課題に基づいた内容の生徒指導研修を実施するとともに、分掌担当の主体による取組と部内の協働的な体制づくりを推進する。					

3	自己の健康と体力を高めるための取組を進める。	継続	◎体育授業の充実や休憩時間の取組を通して、意欲的に運動に取り組む児童を増やすとともに、児童の体力向上を図る。	○児童の全体的な傾向を把握し、セット運動等、実態に応じた取組を行う。また、家庭学習と連動させ、児童が意欲的に取り組めるようにする。 ○授業時間や休憩時間での体力づくりの取組を行う。	◇自己課題に取り組んでいる児童を100%にする。 ◇新体力テスト結果において、県平均を上回る種目を7/12以上にする。 ◇児童アンケートを作成し、「運動するのが楽しい。」「友達と運動するのが楽しい。」の項目において、肯定的な回答の割合を85%以上にする。	□頑張りカード等で、自己課題に取り組んでいる。(100%) □今年度は、新体力テスト未実施のため未集計 □児童アンケート「運動するのが楽しい。」84.7% 「友達と運動するのが楽しい。」88.7%	3	3	○家庭学習での体力づくりの取組を継続する。また、トレーニングの仕方を学校HPに掲載し、正しいトレーニングの方法を周知できるようにする。 ○2学期に学校独自で体力テストを行う。特定の種目を実施し、昨年度の県平均を上回るように取り組む。特に、課題である走力の向上に取り組む。 ・休憩時間での体力づくりの取組を行う。(50m走のタイム測定キャンペーンなど)	
3	信頼される学校づくりのために組織的に取り組む。	★継続	◎情報発信を積極的に行う。 ◎業務改善に取り組む。	○機をとらえ、分掌・担当等の主体的な動きを生かす。 ○教職員の放課後の時間を確保し、教材研究や授業準備、打合せ等の時間にあてる。	◇学校評価アンケートにおいて、「ホームページや学校だより等で、学校の取組がよく分かる。」の項目を90%以上の肯定的な回答にする。 ◇学校評価アンケートにおいて、「授業づくりを行う時間が確保できている。」の項目において80%以上、「仕事に意義とやりがいを感じている。」「仕事の中で充実感を得られている。」の項目を95%以上の肯定的な回答にする。	□保護者アンケート肯定的評価92% □定期的に発行ができている。 □メール配信による積極的な情報発信を行うことができている。 □学校評価アンケート ・授業づくりを行う時間が確保できている。肯定的回答66.7% ・仕事に意義とやりがいを感じている。肯定的回答95.5% ・仕事の中で充実感を得られている。肯定的回答95.4%	4	4	○学校便りの定期的に発行する。 ○HPのトピックス等の積極的な更新を行う。 ○校内掲示計画を基にした分掌・担当等による掲示物の更新を行う。 ○適切な勤務管理を行う。 ・定時退校日の設定 ・入退校記録の管理 ○教職員の授業づくりにあてる時間を積極的に確保する。 ・特別時程週間の設定(※12月・3月) ○職員の心身の様子についての積極的に把握する。 ○土・日曜日は、完全閉庁にする。	

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。